

歴史調査の楽しみ方

日平城跡

2 (歴史編の1)

熊本県立装飾古墳館 館長

大田 幸博

(元・菊水町史編纂委員会副委員長)

天

正八年(1580)の事です。薩摩の島津氏は、城親賢(春の植木市を始めた殿様)の要請によって、隈本城(熊本城の前身で、県立第一高校の敷地が城跡地です)宮内(藤崎台)に駐屯しました。

これに対して、翌年には、肥前(佐賀)の竜造寺隆信が肥後に進出して来ました。この時、城氏は、島津勢の隈本駐在の引き上げを約束させられました。この事で、島津氏は、肥後進出の足がかりを失いました。

そこで島津氏は、八月に水俣を攻めて、相良氏を破りました。十二月には、相良義陽は、島津氏との約束で、阿蘇を攻めて、響ヶ原合戦(宇城市豊野)で甲斐宗運に破れ、38才で討ち死にしました。同じ頃、隈本では、城氏が病死しました。

天正十年(1582)、島津義久は、球磨郡と八代郡を支配下に入れて、八代を肥後進出の本陣としました。番衆(警護にあたる侍)を派遣し、再び隈本駐在を定めて、当番衆として吉利忠澄・新納忠元・伊集院久宣を派遣しました。

島津氏の八代本陣の課題は、豊後の大友氏に代わって台頭してきた竜造寺氏の対策が根本にありました。隈本番衆には、肥後の武將を支配下に入れ、筑後への繋ぎを作る事などが期待されました。さらに、島原半島で竜造寺勢と対決している有馬氏を側面から救護する目的がありました。

そこで、隈本の次の前線拠点を入手するために、日比良(日平)城の攻撃が行われたのです。小森田氏(菊池氏の家臣)の本城であった日比良城は、菊池川河畔の安楽寺城を出城とする事で、竜造寺の支配下にあつた港町高瀬の津(港)に圧力をかけられる場所であり、さらには、南関へ至る西海道の本道にも繋がる地理的な要所であつた事によると見られます。ただし、日比良城の背後に、山本郡の内古閑氏の霜野城が控えているのが問題でした。

天正十年(1582)十月、島津氏は、肥後北部へ軍を進めました。この区域を抑えていた竜造寺勢力を一掃するためでした。この間のことは『上井覚兼日記』に詳しい記録が残っており、合戦の様子

もわかります。

(注) 上井覚兼は島津氏の老中で、薩摩藩の政治を取り仕切った人物です。天正二年(1574)から十四年(1586)までの日記で、日平城の城主が小森田氏で

あつた事もわかります。

日平城攻めについては、天正十年十二月九日から二十一日までの日記に書かれています。このことについては、次号でお話します。



日平城の現地説明会について

平成21年11月14日(土)の午後1時30分から3時30分まで行いました。総勢40名の参加があり、城歴の説明の後、全員で城内を見学しました。少し曇り空でしたが、前日の雨も上がって盛会でした。春先に2回目の見学会を予定しています。
※平成21年3月に刊行しました『内田今城跡』調査報告書は、学習院大学を通じて皇太子殿下に献本致しました。

地域活性と次世代へ食のメッセージ



有限会社 高木食品



☎ 0968-34-2665
 🌐 <http://www.sho-ronpo.com>
 ✉ haotu@sho-ronpo.com

所在地／和水町西吉地2628-1

事業内容／食品製造販売

飲食店経営

操業開始／昭和55年

資本金／500万円

従業員数／41人

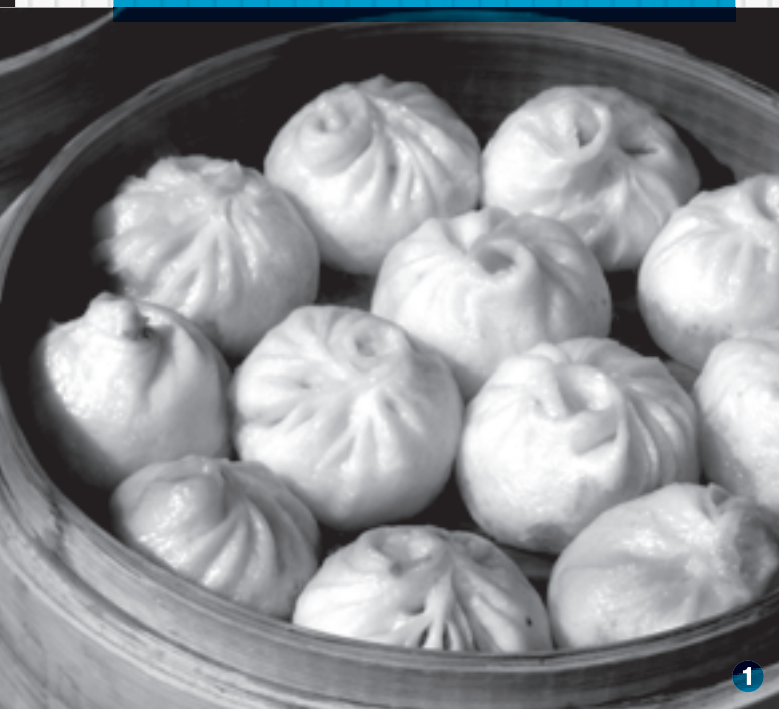
取扱商品／好吃のショーロンポー、中華ちまき

いきなり団子、酒まんじゅう

南関素麺『雪の白糸』

こんなものを作ってます。

① 好吃のショーロンポー ② いきなり団子 ③ 中華ちまき ④ 南関素麺



ショーロンポーの誕生から30年。おいしいものを作りたい、お客様に喜んでいただきたいその思いで作り続けてまいりました。食の安全が問われる今、私どもも安心安全をお客様にお届けできますよう、今後とも精一杯頑張っていきたいと思っております。地元の皆様に愛される商品作りを目指し、30年、40年、50年と歩んでまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

代表取締役 高木 緑



小籠包の製造風景



主に保育園や老人施設へ納品しています。町のイベントにも出店参加しています。

世代を超え、食と食とのコミュニケーションを軸に笑顔のある暮らし